

## 平成 2 3 年度 学校評価総括評価表

### ( 1 ) 重点課題

- ① 全ての教科科目・領域において「個別の指導計画」を作成し，一人一人に応じた指導の充実を図るとともに，学部連携による一貫教育体制を推進する。
- ② 卒業後の自立と社会参加をめざし，生徒一人一人の能力・適性を把握し，職業教育の充実を図るとともに，主体的な進路選択ができるよう支援する。
- ③ 幼児児童生徒の多様な教育的ニーズに応えるため，医療，福祉，労働等との連携体制を構築し，「個別の教育支援計画」を活用した総合的な支援を行う。
- ④ 幼児児童生徒が地域社会の一員として，心豊かに生きていくことができるよう，地域の学校との交流及び共同学習や地域の教育力の積極的な活用を推進する。また，特別支援学校のセンター的機能を発揮し，相談支援や研修支援，地域の人々への理解啓発等の充実を図る。
- ⑤ 寄宿舎においては，互いを認め合い，尊重しながら共に生活する中で，余暇時間の活用や自己学習が充実するよう環境を整備するとともに，きめ細かい支援を行う。
- ⑥ 教職員一人一人の専門性を高め，組織としての機能性向上を図る。

### ( 2 ) 今年度の重点目標

- ① 全校で取り組むキャリア教育を確立し，「個別の教育支援計画」を活用した進路指導の充実を図る。
- ② 盲学校と聾学校の併置に向け，組織や運営等について検討する。
- ③ 校内研修の充実により教職員の専門性の向上を図り，組織としての機能性を高める。

( 3 ) 総括評価表

① 全校で取り組むキャリア教育を確立し、「個別の教育支援計画」を活用した進路指導の充実を図る。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
<p>・学部間の連携を密にし、系統的・継続的なキャリア教育の取り組みを確立する。 (主事会)</p>	<p>・主事主任会を学期に2回以上実施し、学部の共通理解と連携を図る。</p>	<p>・主事主任会を1学期は2回(4/29・5/28)実施し、系統的なキャリア教育の取組について検討した。各学部共通の学習プログラムの枠組で行うことを確認した。 ・2学期は3回(9/27・10/24・12/15)実施した。めざす幼児児童生徒像についての話し合いの中で、それぞれの学部学科でのキャリア教育観を理解共有することができた。</p>	B	<p>・主事会と各学部の計画との整合性がとれていない。(キャリア教育と職業学科以外ない)主事会から各学部へおろし、各学部から主事会に報告する等の検討の余地あり。</p>	<p>・「個別の教育支援計画」や各学部の学習プログラムの運用について、情報交換や検討する機会をもち、連携を図る。</p>
<p>・障害が多様化してきたなかで、P T A施設見学をより有効な進路選択の一助と出来るよう進路課と協力し、企画運営する。 (教育企画課)</p>	<p>・P T A施設見学において、保護者の満足度75%以上を得る。</p>	<p>・年度初めの保護者面談やP T A役員会で意見を聞きとった。また、進路課と協力し、夏休みに教員による施設見学を実施し見学施設候補を挙げた。今年度は見学先が福祉就労(きのこハウス)であったため、職業学科の保護者の参加がなかった。(参加保護者は12%)企画については評定B(60%)であり、目標の75%には到達出来なかった。</p>	B		<p>・保護者同士の連携を深めることにより、教員主導から保護者主導でより有効な施設見学を実施できるよう話し合いの場を設定したい。</p>

<p>・あいさつや言葉遣いのエッセンスを大切に、授業科目にもアンケート調査を実施する。 (指導課)</p>	<p>・月2回以上、指導員を中心に、朝、東門に立ち、気持ちよさを職員に伝える。  ・保護者対象のアンケートを作成し、家庭内で検討し、家庭内での見直しや改善につなげる。</p>	<p>・交通安全指導を月2回、本校関係者や通学児童、地域住民とも積極的に実施している。また、生徒会でも交通安全指導を始めた。職員向けアンケートで「授業や日常会話の中で生徒や職員同士、節度をあまり持てない（と感じる）」という回答が20.3%もあり、職員のモラルが問われる結果が出た。 ・「家庭内であいさつができていない」という回答は96.8%とあり、今後も家庭との連携を強化し、あいさつの習慣化を進めていく。</p>	<p>B</p>	<p>・交通安全指導とあいさつ運動の継続 ・節度ある対応 ①節度が保てていないと感じる場面などを調査する。 ②調査であがってきた具体例を基に、学部学科等で話し合いを持ち、意識改革を図る。 ・あいさつの習慣化 ①個に応じたあいさつについて、保護者と担任が話し合い、家庭と学校が連携してあいさつの習慣化に一層努める。</p>	<p>・交通安全指導とあいさつ運動の継続 ・節度ある対応 ①節度が保てていないと感じる場面などを調査する。 ②調査であがってきた具体例を基に、学部学科等で話し合いを持ち、意識改革を図る。 ・あいさつの習慣化 ①個に応じたあいさつについて、保護者と担任が話し合い、家庭と学校が連携してあいさつの習慣化に一層努める。</p>
<p>・進路支援については、児童生徒の実態から関係機関の協力を図り、必要に応じて関係機関と連携を図る。「個別支援計画」の活用を努める。 (人権・進路課)</p>	<p>・適宜更新される「個別の教育支援計画」を学年・学期ごとに3回以上実施する。</p>	<p>・各学部学科において、「個別の教育支援計画」の活用を促し、適宜支援内容を3回以上実施する。</p>	<p>B</p>	<p>・成人の生徒について、保護者に相談する機会を少なくし、必要に応じて関係機関と連携を図る。</p>	<p>・毎年外部機関との支援会議を行うには、先方に負担がかかると思われる活用を優先的に検討する。</p>

<p>・「個別の教育支援計画」を活用し、各教科でキャリア教育を実践する。 高（職業学科）</p>	<p>・各教科で就労を意識したキャリア教育を実践する</p>	<p>・生徒のキャリア教育として、企業で入社する方を担当し、研修を聞くこと以外に大切なコミュニケーションを学んだ。また、アンケートの結果、高等部職員は74%以上のA及びB評価を得ることができた。</p>	<p>B</p>		<p>・引き続き、「個別の教育支援計画」を活用し、各教科でキャリア教育を実践したい。</p>
<p>・普通科は社会への出口となるため「個別の教育支援計画」に基づき、計画的に就業体験（事業所や施設等）を行い、事前・事後指導を含めた進路指導の充実を図る。 高（普通科）</p>	<p>・事前・事後指導を含めた就業体験の内容や結果が、アンケートで75%以上の満足度を得る。</p>	<p>・普通科全員の就業体験が、予定通り実施できた。事前指導・就業体験・事後指導を計画的に実施する中で、生徒・保護者ともに、卒業後の進路についてより具体的に考えるきっかけになった。職員・生徒・保護者向けのアンケート全てで、75%以上のA及びB評価を得ることができた。</p>	<p>B</p>		<p>・計画的な就業体験の継続。 ・就業体験の成果と課題を踏まえ、日常の指導内容や方法について見直す機会を持つ。職員間・保護者で共通理解を図り、学校と家庭の連携に一層努める。</p>
<p>・「個別の教育支援計画」をもとに、施設の利用を促すために、施設等の利用方法について個人懇談を計画する。（中学部）</p>	<p>・個人懇談を年3回以上実施し、施設等の利用方法について説明する。</p>	<p>・個人懇談等を3回以上実施し施設の利用方法について説明した。その結果利用につながったケースもあった。</p>	<p>B</p>		<p>・施設との連携の方法について、具体的な計画を立てる必要がでてくる。</p>

<p>・電話での情報交換，施設や支援を受けている様子など，関係機関との連携を図り，その内容を「個別の教育支援計画」に記録し，担任や保護者と現在の学習や進路についての共通理解を図る。 (小学部)</p>	<p>・「個別の教育支援計画」をもとにした保護者との懇談を，3回以上行う。</p>	<p>・「個別の教育支援計画」をもとにした保護者との懇談を，1学期末，2学期末に実施した。3回目懇談は3学期末に実施する。 児童の補助具作成について関係機関と相談をした際，児童が受けている訓練の様子を見学したり，見学後は，訓練の様子を踏まえ，目標を設定したり，授業内容や進路について，校内の進路連絡会議への参加や，進路担当者との話し合いを通して，将来の進路について共通理解を図る機会もできた。</p>	<p>B</p>		<p>・学校で取り組んでいることを「保護者と共有する」という点で，課題が残った。今年度は，「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「キャリア教育学習プログラム」などを保護者に提示し説明してきたが，保護者に十分満足してもらえなかった。今後は，立案や見直しをすも，保護者や関係機関とより密接な連携をしていくこととで，さらなる共通理解を図りたい。</p>
<p>・本校に在籍する幼児は，他の療育機関や理学療法等の専門機関をおり，その専門的情報を保たすために各機関を訪問して情報交換を行う。</p>	<p>・主な関係機関を各幼児につき1カ所以上訪問し，見学の機会を確保し，情報の共有化を図る。</p>	<p>・全幼児に対して，1カ所から3カ所の関係機関を訪問して療育や訓練の様子を見学し，担当者の情報交換を行った。</p>	<p>B</p>		<p>・主に7～8月に訪問したが，次年度は時期を早めた。また，担当者との情報交換は，訪問時だけでなく，電話等でも引き続き行いたい。</p>

<p>・本校での様子や近況を、保護者に共有化を図る。（幼稚部）</p>	<p>・保育での様子に記入し、保護者に年間3回以上発信した。</p>	<p>・3か所の関係機関担当者として「連絡ノート」を介して情報交換を行った。幼児によって、機関の利用頻度が異なったため、1～3回の発信を行った。</p>		<p>・「連絡ノート」がファイル式であるため、機関から保護者へ返却が遅れた場合、他機関との情報の受け渡しに時間が必要であった。次年度は、発信の方法を改善し、スムーズに情報共有を行う。</p>
-------------------------------------	------------------------------------	--	--	---

② 盲学校と聾学校の併置に向け，組織や運営等について検討する。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
<p>・盲聾が併置される事により業務が複雑になる可能性があるので，迅速な事務処理業務について迅速化を図る。 (管理職・事務)</p>	<p>・業務を精選し文書回覧および処理方法を検討し，迅速化に対応できる体制を整える。</p>	<p>・業務を精選することにより，受付文書，発送文書の回覧が早くなった。また，受付文書の担当課を明確に記載し，配布した文書の所在を明らかにし，より起案，報告が確実になった。</p>	B	<p>・盲聾併置に関しては先取りしすぎの感がある。自然にコミュニケーションがとれる雰囲気作りが大切であり，教員に余裕が必要ではないか。</p>	<p>・今後，併置に向け業務が複雑になってくると考えられるので，引き続き業務の精選を図り，より効率的な事務処理を行っていく。</p>
<p>・昨年度に続いて「新しい学校を考える会」など併置について考える機会をつくり，より具体的な情報の発信にも努める。 (教育企画課)</p>	<p>・ホームページによる情報発信や保護者向け広報紙を年2回以上行う。</p>	<p>・研修会を3回実施，校内情報紙「チーム盲学校」を3回発行し，情報発信を行った。 ・ホームページには新しい学校づくりのページを立ち上げ，昨年度からの取り組み内容等の情報提供を行った。</p>	B		<p>・保護者，生徒からの評価がBであったので，広報紙の配布の時期や方法についても検討し，発信を十分に受け止めてもらえるよう工夫をする。</p>
<p>・盲学校と聾学校併置に向け，個人情報保護の活用を基に，学校全体としてセキュリティポリシーを遵守できるよう，中核理解啓発を図る。 (教育研究課)</p>	<p>・校内情報セキュリティ委員会を年2回以上開き，教職員のセキュリティポリシーの共通理解を図る。</p>	<p>・4月当初，セキュリティポリシーについて全職員に誓約書へ記名押印を求めた。校内情報セキュリティ委員会を2回実施し，校内研修等により26回の周知啓発を行い，本校のセキュリティ意識を高めた。</p>	A	<p>・総合評価はAであるが生徒の評価が低いので，教員のやる気をもう少し引き出すにはどうするか。</p>	<p>・セキュリティポリシーを遵守する意識は高い。自分の個人情報が適切に扱われていると感じる保護者や生徒がいて，今後とも継続して理解啓発を行いたい。</p>

<p>・防災計画，危機管理マニュアルの周知を図る。また，地域との連携を図る。防災点検と番との交番など，防災を促す。（指導課）</p>	<p>・防災計画，危機管理マニュアルの周知を図る。また，地域との連携を図る。防災点検と番との交番など，防災を促す。（指導課）</p> <p>・学期ごとに地域の交番と情報交換を行う。</p> <p>・防災訓練について見直しを図り，生徒等が自ら気づき考えることを企画する。</p> <p>・保護者対象のアンケートを作成し，家庭において防災について考えるきっかけをつくる。</p>	<p>・防災計画，危機管理マニュアルを点検する中で，連絡体制の整備や，役割分担，災害保存食の備蓄等の見直しを行い，職員アンケートでは98.3%から改善の評価を得られた。その一方で，保護者や生徒の17.4%が防災面での不安をもっていることがわかった。</p> <p>・交通安全指導のため，交番からも立哨の応援に来てくれたり，交通標識を見やすい位置につけかえる許可をいただいたり連携が図られている。</p> <p>・8/11には教職員によるシミュレーション訓練を，9/1には幼児児童生徒も参加しての訓練を実施した。また，中学部高等部の生徒は，被災地支援体験報告や被災者からの手紙朗読を聞いた上で，防災・減災について考えるグループディスカッションを行い，発表し合った。</p> <p>・避難場所や避難経路，家具の固定や非常持出袋の準備状況等を調査した。結果，家族で避難場所や避難経路について確認し合っている家庭が47.1%と低く，大きな課題が浮き上がった。</p>	<p>B</p>	<p>・盲聾併置に関することが読み取れなかった。画が立って疑念を抱いているか。聴覚障害者の子どもの計画でも必要ではないか。</p>	<p>・防災減災 ①生徒や保護者からも意見を聞きながら，幼児児童生徒の実態や環境の変化に応じて，防災計画，危機管理マニュアルの点検，改善，周知を繰り返していく。 ②防災訓練については，学期に1～2回の割合で繰り返し実施し，その都度問題点を挙げ，改善策を講じていく。 ③授業中に被災した場合と，学校以外で被災した場合の対応について，保護者と担任で確認し合えるよう，担任を通して保護者に働きかけていく。</p>
--	---	---	----------	---	---



<p>・人権教育の年間計画を作成し、学校の活動で実践できる人権教育の支援する。特にホームルーム等の学習では、盲聾併置に向けて聴覚障害の理解が深められるようにする。</p> <p>(人権・進路課)</p>	<p>・年間計画の達成度が80%以上に評価し、計画を支援する。</p>	<p>・学期末に記入を促す支援をしたうえで、二学期末には連絡票を配布し、ほぼ目標を達成した。</p>	<p>B</p>		<p>・それぞれの児童生徒の年間計画を、進めるとともに、その実態の継続的意識を、児童の発達に合わせた支援を行う。</p>
<p>・地域支援課の業務内容・視覚障害教育支援センター的機能を再整理する。</p> <p>(地域支援課)</p>	<p>・地域支援課の業務内容と視覚障害教育支援センター的機能についての一覧又は図を作成し配布する。</p>	<p>・聾学校との併置に向けた、校務分掌業務の洗い出しや、聾学校のセンター的機能や業務内容に関する情報交換会を行う中で、既存のセンター的機能一覧をもとに見直しを進めている。</p>	<p>B</p>		<p>・保護者や生徒を対象に、PTA総会や生徒会等を活用して、視覚障害児の支援センターの周知を図る。</p> <p>・地域支援課の業務内容と視覚障害教育支援センター的機能についての一覧又は図を作成し配布する。</p>

<p>・視覚障害者と聴覚障害者の関わり方を考える機会を持つ。</p> <p>高（職業学科）</p>	<p>・聴覚に障害のある方から話を聞くなど、視覚障害者の関わり方を持つ機会を持っている。</p>	<p>・聞こえにくさについての講義と、演習を行い、聴覚に障害のある方々との関わり方ができた。</p>	<p>B</p>		<p>・聾学校のコーディネーターに協力を仰ぎ、より具体的に聞こえにくさについて学び、患者とのコミュニケーションに活かせるようにしたい。</p>
<p>・聾学校との併置に向け、聴覚障害者理解の一助とするため、手話や聾学校での生活の様子などについて学び、発表の場を設ける。高（普通科）</p>	<p>・年間5回以上学習の機会を持ち、その成果を保護者に報告する。</p>	<p>・聞こえにくさについての学習や、手話を交えた歌の練習を10回以上行った。練習した手話コースは、文化祭の演技の中に取り入れ、保護者にも学習の成果を見て頂いた。</p>	<p>B</p>		<p>・手話には少し親しむことができたが、聴覚障害を理解するには至っていない。お互いの学校生活をDVDで紹介したり、行事での交流を試みるなどを通して、今後理解に努める。</p>
<p>・自分の障害について考え、視覚補助具等の使い方を理解する。（中学部）</p>	<p>・生徒は見え方に応じた視覚補助具を有効に活用している。</p>	<p>・自分専用の単眼鏡を購入し視覚補助具を積極的に利用するようになった。全盲生徒はマークを活用し始めた。</p>	<p>B</p>		<p>・視覚補助具のごとを聾学校の中学部生徒に知らせる。重複障害の交流について、内容や方法を検討する。</p>
<p>・聾学校の児童に手紙を出したり、両校の校歌を交換したりするなどの間接交流をする。（小学部）</p>	<p>・聾学校小学部との間接交流の機会を3回以上もつ。</p>	<p>・聾学校小学部と間接交流を2回、直接交流を2回実施した。間接交流では、本校の校歌紹介と児童の自己紹介をビデオレターで送付したり、国語で学習した手紙を交換したりした。直接交流では、聾学校の遠</p>	<p>B</p>		<p>・次年度も間接交流や学年間交流を深めていく予定である。と交流の事前学習や手話による簡単なあいさつや自己紹介などの学習にも取り組む、少</p>



<p>・交流保育や校外保育，聾学校と場所を共有した校外保育など，様々な集団活動を行う。</p> <p>(幼稚部)</p>	<p>・学校間交流（7回以上）や居住地の親子が集まる場所への校外保育（5回以上）を実施する。</p> <p>・聾学校幼稚部と場所を共有した校外保育を1回実施する。</p>	<p>・学校間交流（6回実施）では，特に園庭で，小集団の雰囲気を感じながら，霧を重ねるごとに積極的に遊んだ。校外保育（4回実施）では，施設を利用する親子と触れあいながら遊んだ。また，聾学校幼児と行程をともにした眉山での校外保育（1回実施）では，子ども同士が意識し合い，かかわりを求めながら遊ぶことができた。3学期は，学校間交流を2回，校外保育を3回実施する予定である。</p>	<p>A</p>		<p>・天候不良の場合の代替案をもち，次の年度も，様々な形態の校外保育を計画，実施する。</p> <p>・聾学校と連携しなした校外保育を継続して実施する。</p>
<p>・併置後の舎生の実態に即した，学校間の連携を推進する。</p> <p>(寄宿舎)</p>	<p>・具体的な取り組みについて話し合う機会を年間2回以上持つ。</p>	<p>・盲，聾両校での話し合いを年間7回実施し，組織や運営等について検討することが出来た。</p>	<p>B</p>		<p>・継続して聾学校と連携を行い聾学校寄宿舎生との交流の機会を持つ。</p>

③ 校内研修の充実により教職員の専門性の向上を図り，組織としての機能性を高める。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
<p>・全教諭の1/3が研究授業または公開授業を実施する。研究授業または公開授業を活用し，幼児児童生徒の学力向上につながる全教職員の授業力向上をめざす。 (教育研究課)</p>	<p>・全教職員が年間1回以上の研究授業または公開授業を参観し，イントラのフリーシートにより，授業者と双方向で振り返りをする。</p>	<p>・計画した全ての研究授業と公開授業を実施し，学部所属の全教員は，研究授業または公開授業を1回以上参観し，授業者と双方向で振り返りを行った。</p>	B		<p>・教職員は研究授業や公開授業を計画通り実施し，授業力を向上させ，保護者からは高い評価を得ることができた。しかし，生徒本人は学力が向上していると感じていないことが課題である。次年度は生徒自身が学力の向上を実感できる手立てを考えたい。</p>
<p>・あいれんじャーの登録内容から人材を検索できる「おしえて あいれんじャー」を作り校内支援への活用を促す。 (地域支援課)</p>	<p>・「おしえて あいれんじャー」の使い方を伝える。</p>	<p>・教育研究課と連携し「おしえて あいれんじャー(試作)」を作り校内LAN案内板にアップした。 ・「あいれんじャー」というシステムの更なる理解と協力を図る広報が周知できていなかった。</p>	C	<p>・教職員と保護者間のコミュニケーションが大切である。親は強く、「聴きたい，知りたい」と思っているので，密なやりとりをこころがけてもらいたい。 ・校内でも，うまく活用してもらいたい。</p>	<p>・現状からの意見を聞き，ICTサポーターとも協力し，「おしえて あいれんじャー」の整備を急ぐ。 ・「おしえて あいれんじャー」の活用を促進させるための利用数報告をする。 ・「チームあいれんじャー」の規模を小さくし発行頻度をあげ，あいれ</p>

					んじやーの活動状況がオンタイムで保護者や生徒に伝わるようにする。
<p>・小学部の児童に必要な視覚障害教育について、研修を行い、日常生活や学習場面において、児童の実に合った環境を設定したり提供したりする。 (小学部)</p>	<p>・研修→実践→改良→再実践のPDCAサイクルを、4ケース以上実践する。</p>	<p>・「点字導入前の学習について」「触って分かるシンボルの工夫と改善」「視覚障害児のキャリア教育」「教室環境の改善」について学部研修を行った。研修を生かし、触ってわかる1日のスケジュールシンボルを作成したり、教室入り口や机の位置の手がかりとなる視覚的手がかりを作ったりした。また、視覚障害の特性に視点を置いて「キャリア教育学習プログラム」を作成した。その後日々の実践を通じ、PDCAサイクルの、改良→再実践を継続している。</p>	B		<p>・ひとつひとつのケースをじっくり検討することが難しかった。研修やケース会議の日程を年度初めに確保しておくことで、確実な取り組みになるようにしたい。また、ふりかえりの機会を短い期間で設定し、よきめ細やかな対応がしたい。</p>
<p>・現状に応じた専門的な知識や技能を習得するための職員研修を実施する。 (寄宿舎)</p>	<p>・年間3回以上の研修を行う。</p>	<p>・外部講師を招聘した研修を含め、年間5回の研修を実施し、専門的な知識や技能の向上を図ることが出来た。</p>	B		<p>・生活力の向上についての評価が不十分であったので、生徒に必要な支援・指導をより充実させ舎生の実態に即した研修を実施していきたい。</p>

<p>・学校経営計画に沿って学力学習状況改善プラン，教員評価等を立案し、組織を上げてきめ細やかな指導を行う。</p> <p>(主事会)</p>	<p>・新しい教員評価を活用し、自己目標を達成できるよくな支援を行うこととでほぼ80%が達成できる。</p> <p>・学力学習状況改善プラン及び個別の指導計画に沿った指導の進捗状況の把握と評価を随時行う。</p>	<p>・校長・教頭がほぼ全職員の面談を行い、目標と方策の決定に対して支援を行った。</p> <p>・個別の指導計画の2学期末評価を通して、幼児児童生徒一人一人及び学部学科としての学力学習状況の把握を行い、指導の評価につなげた。</p>	<p>B</p>		<p>・幼児児童生徒の多様な実態に多様な将来を見据え，指導がでべきよう様々な計画を効率的に運用し，専門性向上をはじめとした，教員のキャリアアップを図る。</p>
---	--	---	----------	--	--

【総合評価の基準】

A：十分達成できている。(76以上)      B：概ね達成できている。(51～75)  
 C：達成に努力を要する。(26～50)      D：達成できていない。(25以下)

◎評価計算式

$$(90 \times A \text{ 評価人数} + 70 \times B \text{ 評価人数} + 40 \times C \text{ 評価人数} + 20 \times D \text{ 評価人数}) \div \text{全体人数}$$

平成23年度学校評価に関するアンケート調査集計（学校評議員・学校関係者）

2012/1/25

回収：学校評議員 4名 学校関係者1名

1 今年度の学校重点目標について

① 内容の妥当性について

十分	まずまず	不十分	未回答
1	4	0	0

- ・主事会と学部の計画の整合性，目標に沿った計画になっていないところが一部にあったので，検討してほしい。
- ・身体能力（個々の）の向上の方策が必要ではないか。

② 学校の取り組みと成果について

十分	まずまず	不十分	未回答
1	4	0	0

- ・教員の評価と生徒・保護者の評価が一致していないところについて検討してほしい。
- ・盲聾併置についてはゆっくりとある程度楽観的に取り組まれてはと思う。

2 学校の説明責任について

① 学校評価の内容や方法について

十分	まずまず	不十分	未回答
1	3	1	0

- ・アンケートの取り方は工夫されているが，説明する必要があるところは文書化するとわかりやすいのではないか。
- ・評価方法が客観的であるが，数字に重点を置いていいのか。
- ・難解だった。よく読んで考えて，丁度良かったので，もう少し分かり易く見やすい感じにしてほしい。

② 情報公開の内容や方法について

十分	まずまず	不十分	未回答
2	1	1	1

- ・保護者への情報の周知，フィードバックのあり方を検討してもらえたらと思う。

3 その他

アンケート（保護者・児童生徒・学校評議員・学校関係者）について  
（実施の時期や内容・対象等）

- ・アンケートの母体人数が少ないので，アンケート結果だけでなく，細かな聞き取りや分析も実施した方がいいのではないか。今後も継続してほしい。
- ・対象者の人数を考えると，年齢・性別等，もう少し詳しく示した方がいいのではないか。